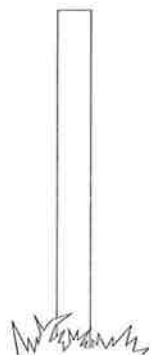
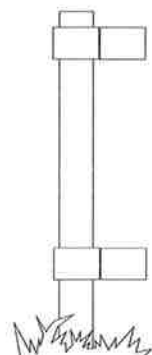


1. 警報器本体設置

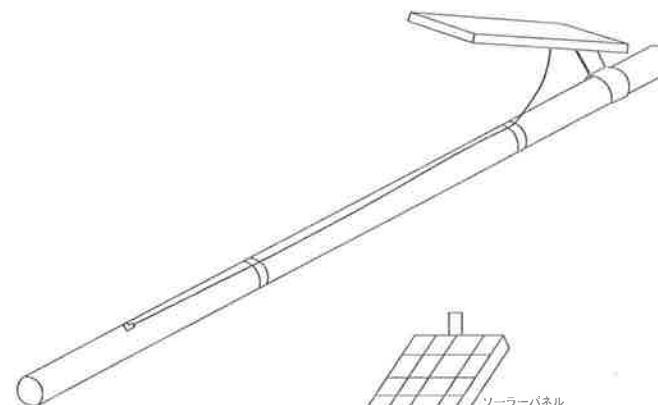
1、1. 5 mの単管を打ちこみます



2、打ちこんだ単管に、自在クランプを取りつけ長い単管を固定する準備をしておきます。



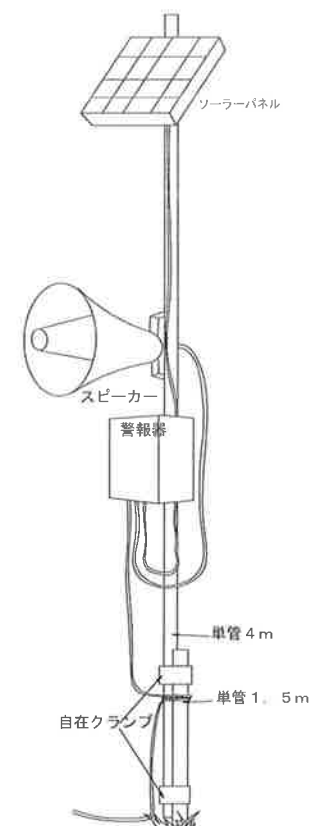
3、4 m程度の長い単管に、ソーラーパネルをクランプで固定します。
この時、ソーラーパネルから電源ケーブルが出ていますので、単管にテープ等で固定します。



4、打ちこんだ単管に、自在クランプで長い単管を固定します。
この時、ソーラーパネルが太陽の方向に向いているか注意して固定します。



5、長い単管の作業しやすい高さに警報機本体をクランプを使って固定します。
この時、ソーラーパネルの電源ケーブルをクランプに挟まない様に注意してください。



完成型

2. センサーケーブルの設置



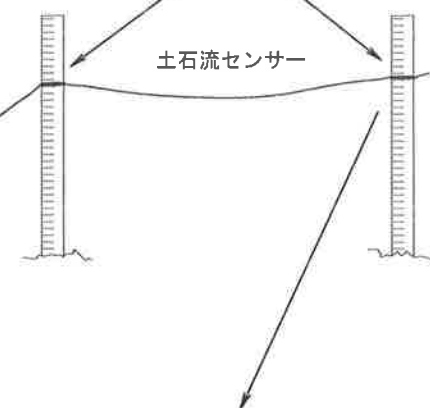
良い例



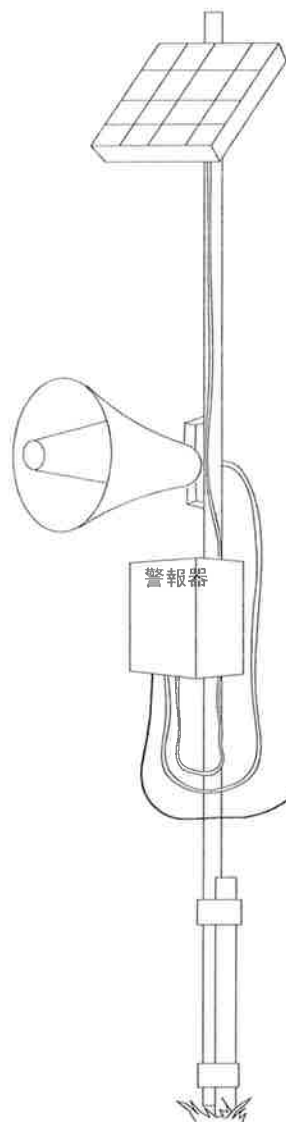
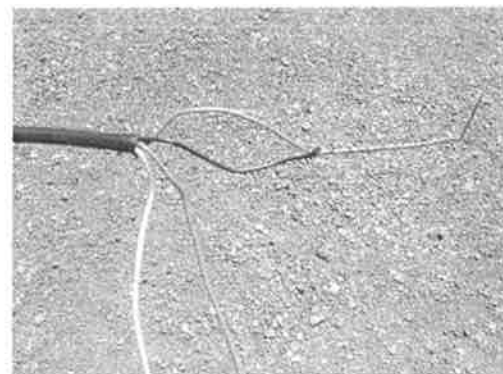
悪い例

センサーケーブル同士を接続します
この箇所が一番接続不良が起きやすいので
細心の注意を払い、皮を剥くときは
中の銅線に傷を付けない様にし、同じ
色同士4色全て接続して下さい。
最後に絶縁テープで保護して下さい。

鉄筋等にワイヤーセンサーを、しっかりと固定します。



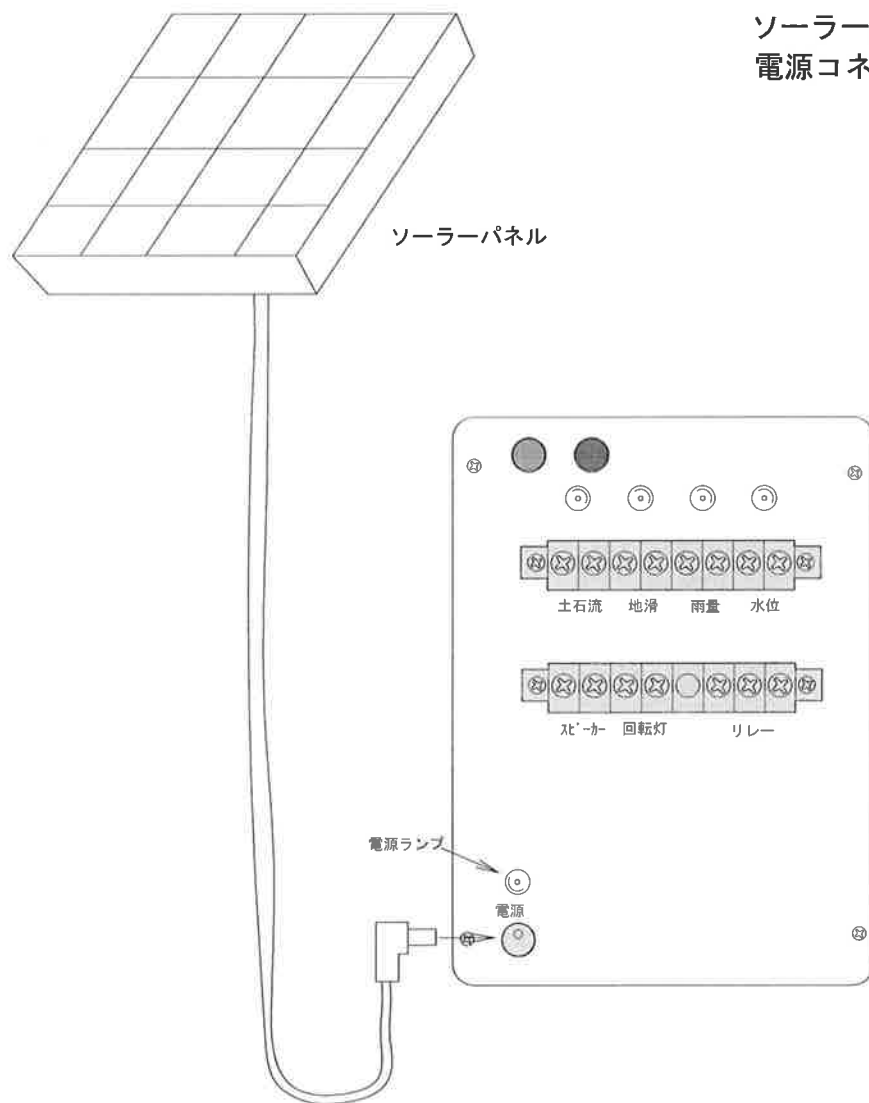
センサーケーブルセンサー部の末端は
茶色と黒で接続します。
この箇所も接続不良が起きやすいので
細心の注意を払い、皮を剥くときは
中の銅線に傷を付けない様にして下さい。
最後に絶縁テープで保護して下さい。



3. 電源ケーブルの取り付け

1. ソーラーパネルからの電源ケーブルを警報器本体に接続します。

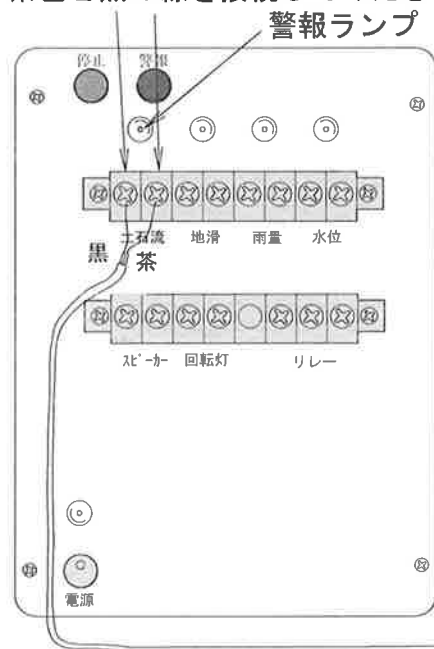
ソーラーパネルに十分日光が当たっていると電源コネクター上部のランプが点灯します。



4. 警報器へワイヤーセンサーの取り付け

1. センサーケーブルの黒と茶色のケーブルを
警報器の土石流端子に接続します。
皮を剥くときは、銅線を傷つけない様に注意
して下さい。
正常に接続競れていると、警報ランプが
消灯します。

茶色と黒の線を接続してください



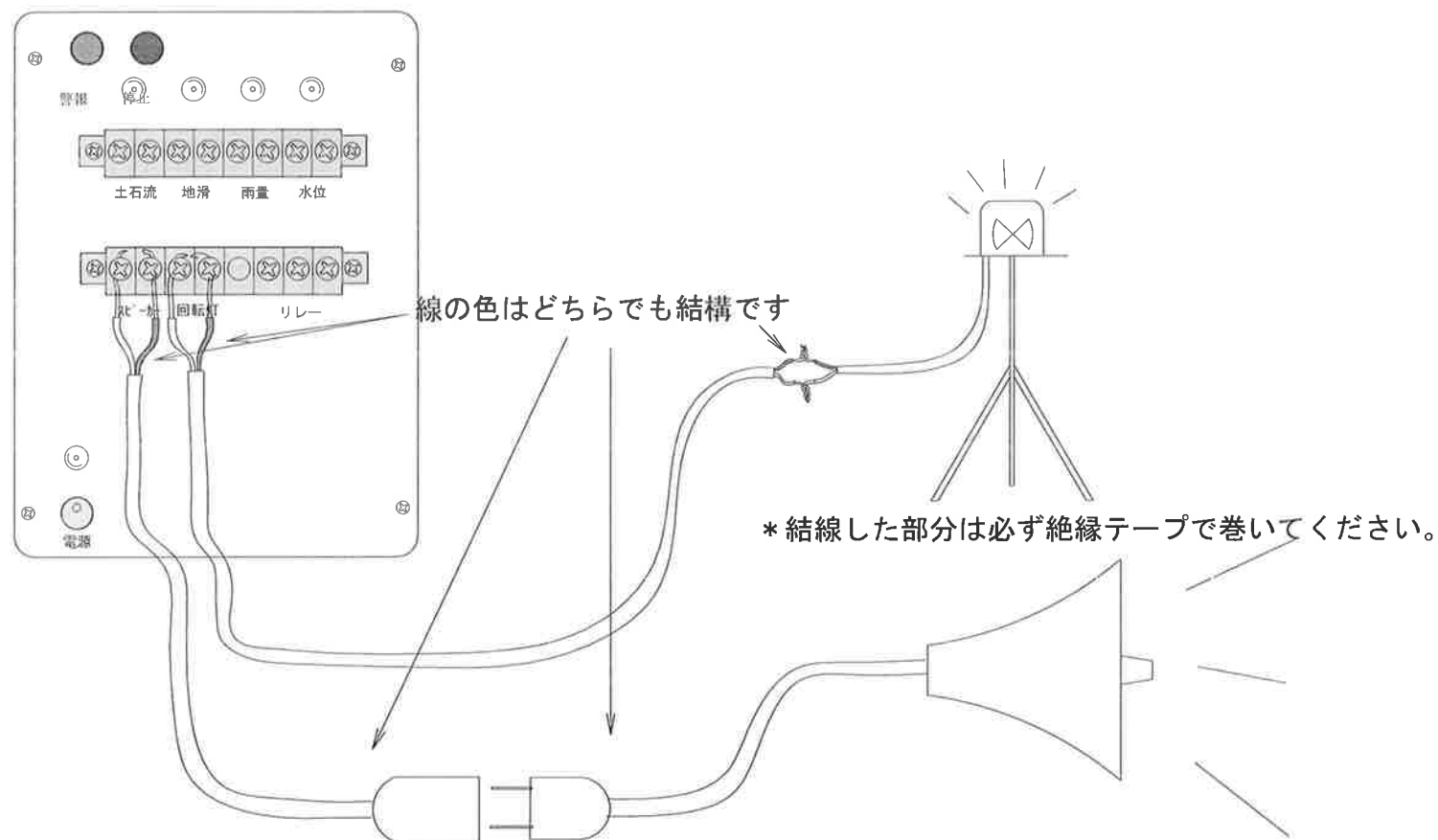
警報ランプがついている時は・・・

1. 土石流用のセンサーケーブルが切断されている。
2. 地滑計から警報が出ている。（接点している）
3. リレー接続で警報機同士を接続してあり
ランプがついている警報器が下流にある時
上流の警報器の警報が出ている時。

5. スピーカーと回転灯の取り付け

スピーカーと、回転灯を下図の様に取付けます。

取付が完了したら、警報ボタンを押して
正常に動作するか、テストしてみましょう。

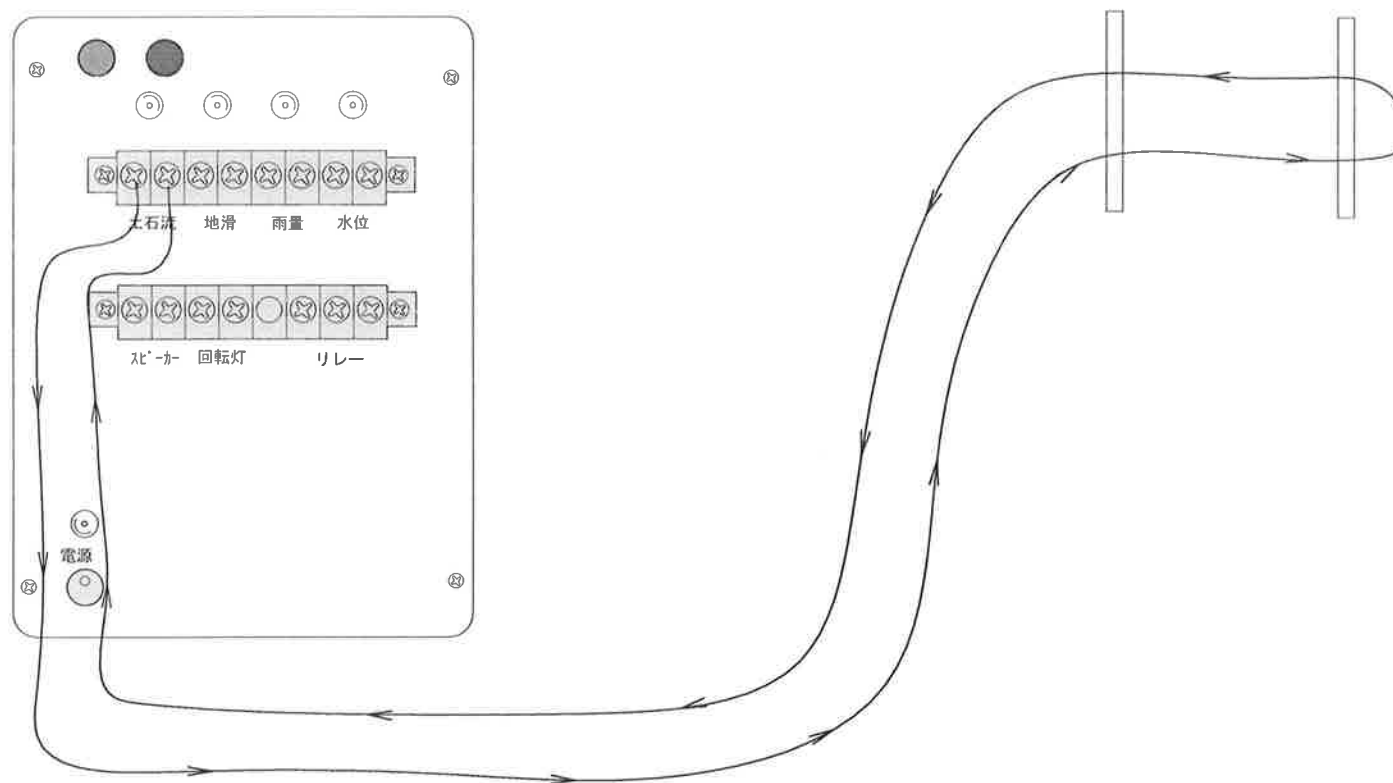


スピーカーの線の途中にコンセントを付けると便利です
防水型のコンセントがおすすめです。

* 結線した部分は必ず絶縁テープで巻いてください。

土石流センサーの仕組み

- * 土石流ワイヤーセンサーには、以下のように電流が流れています
センサーケーブルを途中で繋げる時は、同じ色の線同士を繋げて
電流が流れる様にしてください。
- * 途中で切れると、警報が出ます。
- * 繋ぎ目などで、接続不良があると警報器が誤作動してしまいますので
接続不良が無いようにして下さい。



土石流センサーの仕組み 分岐編

* 下図の様に、電気の流れを妨げない様にケーブルを接続することによって、分岐させることができます。

